

## . 事業計画

## 1. 計画期間について

鳥取城跡整備は、史跡整備として今後、整備管理体制の確立、調査研究、既存施設との調整及び事業予算との関係等により、おおよそ10年毎の3期計画を設定することとした。平成18年を始点として第1段階(短期)、第2段階(中期)、第3段階(長期)の各々10年間の計画とする。整備順位は、前章整備計画において設定されている。おおよその整備内容をまとめると以下ようになる。

期間	整備内容
第1段階 (短期)	城跡案内解説表示の整備、整備前の調査検討、鳥取城跡の顔である大手筋(登城路)の擬宝珠橋・中ノ御門・太鼓御門の建造物を含む復元整備、天球丸の石垣修復整備を進める。 また、史跡保全とともに、憩いの場及び都市緑地としての保全も考慮して、史跡を維持管理する必要がある。そのため、保存管理の基準を明確化するとともに、鳥取城跡全体の施設整備・管理運営を一元的に行う機関の設置を検討する。
第2段階 (中期)	第1段階(短期)で大手部分の整備により、鳥取城跡の顔が整備され導線も明確になる。古写真が残されている二ノ丸三階櫓、菱櫓、走櫓は、第1段階(短期)より調査研究を進め復元整備根拠をまとめる。 第2段階(中期)においては、二ノ丸の三階櫓及び門群の復元整備を進め、二ノ丸の郭の顕在化をめざす。内堀及び土堀は、今後調査研究により整備可能なものを順次復元整備を進める。また、管理施設等公園整備、太閤ヶ平の環境整備事業も進める。
第3段階 (長期)	二ノ丸菱櫓、走櫓等の復元整備を進めることで、市内から二ノ丸の櫓群を眺めることができるよう整備する。整備可能な内堀及び土堀は復元整備を進める。

以上の整備内容を、30年間の整備期間に設定し、整備費を算入したのが事業計画図及び表である。

中長期計画については、短期計画の実施と中間評価に基づき、整備計画の見直しを行う。

## 2. 事業費について

事業費は、今回の計画段階でほぼ復元整備可能なものを石垣、土堀、内堀、建造物等規模、復元整備水準(標準)を考慮し、その概算をまとめたものである。結果、年間おおよそ1億7千万円平均の事業費の設定となった。但し、今後の整備動向により変化するものであり、あくまで現時点のものである。概算には、設計監理料及び諸経費及び消費税を含む。

		第1段階(短期)		第2段階(中期)		第3段階(長期)	
		2006～2010 (平成18～平成22)		2011～2015 (平成23～平成27)		2016～2025 (平成28～平成37)	
		2026～2035 (平成38～平成47)					
山上ノ丸	整備	整備(表示等)		環境整備			
天鼓丸 堀藏	整備	石垣修繕工事			環境整備		環境整備
二ノ丸	整備	整備(表示等)		復元整備(三階櫓・門等)	復元整備	環境整備	環境整備
三ノ丸	整備	整備(表示等)			鳥取堀		
大手筋	整備	石垣 木鼓御門	復元整備		環境整備		
米藏	整備	整備(表示等)	中ノ御門 宝珠櫓	土塀等			
北ノ御門 内堀	整備	整備(表示等)				内堀	
南御門 内堀	整備	整備(表示等)			内堀 石垣 土塀		
御馬場	整備	整備(表示等)				環境整備	
城代屋敷 内堀	整備	整備(表示等)				内堀 土塀	
太閤ノ平	整備	整備(表示等)	環境整備				
中世城砦	整備						
調査・研究	調査						
管理機構	組織	実地計画検討	調査・研究・管理組織の確立				
	施設			管理施設建設(別途)			
	その他	管理委員会設立		長期管理計画			
期間別事業費(千円)		672,000	1,037,000	1,757,000	1,654,000		
			1,709,000				
						合計事業費(千円)	
						5,120,000	
						内 二ノ丸整備費	
						2,201,000	

※ 調査＝発掘調査、整備＝整備工事、管理＝保存・維持管理  
         復元については調査研究結果による

□史跡鳥取城跡附太閤ノ平保存整備事業計画表

# 事業計画範囲図

